

DSP/4416  
US

13849-2001501

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 9月19日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-273350

[ ST.10/C ]:

[ JP2002-273350 ]

出 願 人

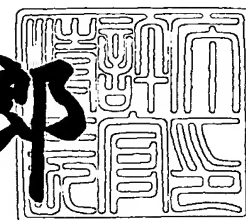
Applicant(s):

本田技研工業株式会社

2003年 6月23日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3049147



【書類名】 特許願

【整理番号】 H102238201

【提出日】 平成14年 9月19日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B60N 1/08

【発明の名称】 車両用シート構造

【請求項の数】 6

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 弼見 哲也

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 白勢 治

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 中村 芳則

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 渡辺 晋介

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

【氏名】 小池 欧介

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100064908

【弁理士】

【氏名又は名称】 志賀 正武

【選任した代理人】

【識別番号】 100108578

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 詔男

【選任した代理人】

【識別番号】 100101465

【弁理士】

【氏名又は名称】 青山 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100094400

【弁理士】

【氏名又は名称】 鈴木 三義

【選任した代理人】

【識別番号】 100107836

【弁理士】

【氏名又は名称】 西 和哉

【選任した代理人】

【識別番号】 100108453

【弁理士】

【氏名又は名称】 村山 靖彦

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008707

【納付金額】 21,000円



【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9705358

【プルーフの要否】 要



【書類名】 明細書

【発明の名称】 車両用シート構造

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 左右両側に配置される一対の側部シートと、これら側部シートの上に配置される中央シートとを有する三人掛けの車両用シート構造において、

前記中央シートのシートクッションが前側分割体と後側分割体とを有しており、前記前側分割体が前方へ移動することにより、該前側分割体の移動後の後面と前記後側分割体の前面と前記一対の側部シートのシートクッションの前記中央シート側の側面とで上方開口の収納凹部を画成することを特徴とする車両用シート構造。

【請求項 2】 前記前側分割体は、前端側を中心に前方へ回動することで前方へ移動するとともに、該回動時に上下反転し、反転後の上面にトレイ部が設けられていることを特徴とする請求項 1 記載の車両用シート構造。

【請求項 3】 前記中央シートは、前記前側分割体の前記上下反転後の前記トレイ部の前端部を前記一対の側部シートの前端部に対し、一致させる位置を含む後方に位置させるまで後方スライド可能とされていることを特徴とする請求項 2 記載の車両用シート構造。

【請求項 4】 前記収納凹部の底部を構成する底部構成部材の下側に該底部構成部材で開閉される上方開口の第 2 収納凹部が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれか一項記載の車両用シート構造。

【請求項 5】 前記中央シートのシートバックが前倒可能とされており、該シートバックは、前倒状態で前記収納凹部の開口を覆うとともに、前倒後の上面にトレイ部が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 4 のいずれか一項記載の車両用シート構造。

【請求項 6】 前記中央シートのシートバックが前倒可能とされており、該シートバックは、前倒状態で前記収納凹部の開口を覆うとともに、前倒後の上面にアームレスト部が設けられていることを特徴とする請求項 1 乃至 5 のいずれか

一項記載の車両用シート構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用シート構造に関する。

【0002】

【従来の技術】

車両用シート構造に関する技術として、例えば、シートクッションの中央側の一部を取り外すことで、残りの部分で四方が囲まれた上方開口の収納凹部を形成したり、この収納凹部の開口を開閉可能な蓋体を設けたりするものがある（例えば、特許文献1参照）。

【0003】

【特許文献1】

特開平2-220936号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上記のようにシートクッションの中央側の一部を取り外すことで上方開口の収納凹部を形成するのでは、荷物を置くため収納凹部を形成する際に、シートクッションの一部を一々取り外さなければならず、非常に手間がかかってしまう。また、シートクッションの中央側の一部を取り外した残りの部分で収納凹部を形成するため、収納凹部の大きさが十分でないという問題もあった。

【0005】

したがって、本発明は、収納凹部を容易に形成することができ、その上、収納凹部の大きさを大きくできる車両用シート構造の提供を目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、請求項1に係る発明は、左右両側に配置される一対の側部シート（例えば実施の形態における側部シート11）と、これら側部シートの上に配置される中央シート（例えば実施の形態における中央シート16）と

を有する三人掛けの車両用シート構造において、前記中央シートのシートクッション（例えば実施の形態におけるシートクッション 1 7）が前側分割体（例えば実施の形態における前側分割体 3 4）と後側分割体（例えば実施の形態における後側分割体 3 5）とを有しており、前記前側分割体が前方に移動することにより、該前側分割体の移動後の後面（例えば実施の形態における後面 5 5）と前記後側分割体の前面（例えば実施の形態における前面 3 8）と前記一对の側部シートのシートクッション（例えば実施の形態におけるシートクッション 1 2）の前記中央シート側の側面（例えば実施の形態における側面 6 3）とで上方開口の収納凹部（例えば実施の形態における収納凹部 6 4）を画成することを特徴としている。なお、前側分割体の前方への移動としては、例えば、前端側を中心とした回動やスライド（水平移動）等がある。

## 【 0 0 0 7 】

これにより、中央シートのシートクッションの前側分割体を前方に移動させると、この前側分割体の移動後の後面と後側分割体の前面と一对の側部シートのシートクッションの中央シート側の側面とで上方開口の収納凹部が画成されることになる。よって、収納凹部を形成するにあたっては、前側分割体を移動させれば良く、シートクッションを一々取り外す必要が無い。また、収納凹部の左右の壁面は、左右の側部シートの側面で形成されるため、中央シートの一部で左右の壁面が形成される場合に比して幅を大きくできる。

## 【 0 0 0 8 】

請求項 2 に係る発明は、請求項 1 に係る発明において、前記前側分割体は、前端側を中心に前方へ回動することで前方へ移動するとともに、該回動時に上下反転し、反転後の上面（例えば実施の形態における上面 5 6）にトレイ部（例えば実施の形態におけるトレイ部 5 7）が設けられていることを特徴としている。

## 【 0 0 0 9 】

これにより、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させると、前側分割体は上下反転して上面にトレイ部が配置された状態となり、左右の側部シートの乗員が中央シートの前側分割体をトレイとして使用できる。

## 【 0 0 1 0 】

請求項 3 に係る発明は、請求項 2 に係る発明において、前記中央シートは、前記前側分割体の前記上下反転後の前記トレイ部の前端部を前記一对の側部シート  
の前端部に対し、一致させる位置を含む後方に位置させるまで後方スライド可能  
とされていることを特徴としている。

## 【 0 0 1 1 】

これにより、前側分割体の反転後のトレイ部の前端部が一对の側部シートの前  
端部に対し、一致する位置を含む後方に位置するまで中央シートを後方にスライ  
ドさせると、左右の側部シートの乗員のトレイ部の使い勝手がさらに良くなる。  
また、左右の側部シート間で乗員が行き来するときに中央シートの前方に回動し  
た前側分割体が邪魔にならず、円滑に移動できる。

## 【 0 0 1 2 】

請求項 4 に係る発明は、請求項 1 乃至 3 のいずれか一項に係る発明において、  
前記収納凹部の底部を構成する底部構成部材（例えば実施の形態における底部構  
成部材 4 6）の下側に該底部構成部材で開閉される上方開口の第 2 収納凹部（例  
えば実施の形態における第 2 収納凹部 6 7）が設けられていることを特徴として  
いる。

## 【 0 0 1 3 】

このように、収納凹部の底部を構成する底部構成部材を開けると下側に上方開  
口の第 2 収納凹部が設けられているため、収納スペースを増やすことができる。

## 【 0 0 1 4 】

請求項 5 に係る発明は、請求項 1 乃至 4 のいずれか一項に係る発明において、  
前記中央シートのシートバック（例えば実施の形態におけるシートバック 1 8）  
が前倒可能とされており、該シートバックは、前倒状態で前記収納凹部の開口を  
覆うとともに、前倒後の上面（例えば実施の形態における上面 7 5）にトレイ部  
（例えば実施の形態におけるトレイ部 7 6）が設けられていることを特徴として  
いる。

## 【 0 0 1 5 】

これにより、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させた状態で、中央  
シートのシートバックを前倒させると収納凹部の開口を覆う蓋となる。しかも、



シートバックは、前倒後の上面にトレイ部が配置された状態となるため、左右の側部シートの乗員が中央シートのシートバックをトレイとして使用できる。

【 0 0 1 6 】

請求項 6 に係る発明は、請求項 1 乃至 5 のいずれか一項に係る発明において、前記中央シートのシートバックが前倒可能とされており、該シートバックは、前倒状態で前記収納凹部の開口を覆うとともに、前倒後の上面にアームレスト部（例えば実施の形態におけるアームレスト部 8 0）が設けられていることを特徴としている。

【 0 0 1 7 】

これにより、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させた状態で、中央シートのシートバックを前倒させると収納凹部の開口を覆う蓋となる。しかも、シートバックは、前倒後の上面にアームレスト部が配置された状態となるため、左右の側部シートの乗員が中央シートのシートバックをアームレストとして使用できる。

【 0 0 1 8 】

【発明の実施の形態】

本発明の一実施形態の車両用シート構造を図面を参照して以下に説明する。なお、以下の説明において用いる前後左右は車体における前後左右である。

【 0 0 1 9 】

本実施形態の車両用シート構造は、左右両側に配置される一対の側部シートと、これら側部シートの間に配置される中央シートとを有する三人掛けの構造であり、前後方向の二列のうちの前列に適用されている。なお、後列のみに適用したり、前後両方の列に適用しても良いことは勿論、三列以上の場合にもすべての列に適用可能である。

【 0 0 2 0 】

図 1 に示すように、前から一列目の左右一対の側部シート 1 1 は、それぞれ、シートクッション 1 2 とシートクッション 1 2 の後端側に連結されたシートバック 1 3 とを有しており、それぞれ単独で、シートクッション 1 2 の下側に設けられたスライド機構 1 4 によって前後スライド可能となっている。なお、これら側

部シート 1 1 はスライド機構 1 4 による前後スライドの範囲が互いに一致している。

#### 【 0 0 2 1 】

一列目の両側部シート 1 1 の間に設けられる中央シート 1 6 は、両側部シート 1 1 の左右方向幅よりも幅狭とされている。中央シート 1 6 は、シートクッション 1 7 とシートクッション 1 7 の後端側に連結されたシートバック 1 8 とを有しており、シートクッション 1 7 の下側に設けられたスライド機構 1 9 によって単独で前後スライド可能となっている。なお、中央シート 1 6 はスライド機構 1 9 による前後スライドの範囲が側部シート 1 1 のスライド機構 1 4 によるスライド範囲に対し一部重なり合いながら後側に所定量ずれている。また、中央シート 1 6 のスライド機構 1 9 によるスライド範囲は、側部シート 1 1 のスライド機構 1 4 によるスライド範囲よりも大きく設定されている。

#### 【 0 0 2 2 】

具体的には、図 1 に二点鎖線で示すように、一对の側部シート 1 1 をスライド機構 1 4 により前端位置に位置させるとともに中央シート 1 6 をスライド機構 1 9 により前端位置に位置させると、一对の側部シート 1 1 よりも中央シート 1 6 が所定量後側にずれることになり、V 字レイアウトとなる。

#### 【 0 0 2 3 】

また、図 1 に実線で示すように両側の側部シート 1 1 をスライド機構 1 4 により後端位置に位置させるとともに、図 1 に二点鎖線で示すように中央シート 1 6 をスライド機構 1 9 により前端位置に位置させると、図 2 にも示すように、両側の側部シート 1 1 と中央シート 1 6 とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

#### 【 0 0 2 4 】

さらに、図 1 に二点鎖線で示すように両側の側部シート 1 1 をスライド機構 1 4 により前端位置に位置させるとともに、図 1 に実線で示すように中央シート 1 6 をスライド機構 1 9 により後端位置に位置させると、一对の側部シート 1 1 よりも中央シート 1 6 が所定量後側にずれることになり、V 字レイアウトとなる。このとき、シートバック 1 3, 1 8 の角度を合わせた状態では、中央シート 1 6

の乗員の肩が側部シート 11 の乗員の肩から完全に離間するように中央シート 16 のスライド機構 19 によるスライド量が設定されている。

## 【0025】

加えて、図 1 に実線で示すように、両側の側部シート 11 をスライド機構 14 により後端位置に位置させるとともに中央シート 16 をスライド機構 19 により後端位置に位置させると、図 3 にも示すように、一对の側部シート 11 よりも中央シート 16 が所定量後側にずれることになり、V 字レイアウトとなる。このときも、シートバック 13, 18 の角度を合わせた状態では、中央シート 16 の乗員の肩が側部シート 11 の乗員の肩から完全に離間するように中央シート 16 のスライド機構 19 によるスライド量が設定されている。

つまり、中央シート 16 が後端位置に位置する状態では、側部シート 11 の位置に拘わらず常に中央シート 16 の乗員の肩が側部シート 11 の乗員の肩から完全に離間する設定となる。

## 【0026】

前から二列目の左右一对の側部シート 21 は、それぞれ、シートクッション 22 とシートクッション 22 の後端側に連結されたシートバック 23 とを有しており、前後スライド不可となっている。なお、二列目の側部シート 21 の左右方向幅は、一列目の側部シート 11 の左右方向幅よりも幅狭となっている。

## 【0027】

二列目の両側部シート 21 の間に設けられる中央シート 26 は、両側部シート 21 の左右方向幅よりも幅狭とされており、一列目の中央シート 16 の左右方向幅よりも幅広となっている。また、中央シート 26 の左右方向の中央位置は中央シート 16 の左右方向の中央位置と左右方向で一致している。中央シート 26 は、シートクッション 27 とシートクッション 27 の後端側に連結されたシートバック 28 とを有しており、シートクッション 27 の下側に設けられたスライド機構 29 によって単独で前後スライド可能となっている。なお、中央シート 26 はスライド機構 29 による前後スライドの範囲が位置固定の側部シート 21 から後側に延びている。

## 【0028】

具体的には、図 1 に二点鎖線で示すように、中央シート 2 6 をスライド機構 2 9 により前端位置に位置させると、図 2 にも示すように、両側の側部シート 2 1 と中央シート 2 6 とが前後に位置を合わせる直線状のレイアウトになる。

【 0 0 2 9 】

また、図 1 に実線で示すように、中央シート 2 6 をスライド機構 2 9 により後端位置に位置させると、一对の側部シート 2 1 よりも中央シート 2 6 が所定量後側にずれることになり、図 3 にも示すように、V 字レイアウトとなる。このとき、シートバック 2 3、2 8 の角度を合わせた状態では、中央シート 2 6 の乗員の肩が側部シート 2 1 の乗員の肩から完全に離間するように中央シート 2 6 のスライド機構 2 9 によるスライド量が設定されている。

【 0 0 3 0 】

次に、一列目の中央シート 1 6 についてさらに説明する。

一列目の中央シート 1 6 は、図 4 に示すように、そのシートフレーム 3 1 においてスライド機構 1 9 に支持されており、そのシートバック 1 8 は、下部側が左右方向に沿う軸線を中心として回動可能となるようにシートフレーム 3 1 に支持軸 3 2 を介して支持されている。ここで、シートバック 1 8 はほぼ水平に沿う状態まで前倒可能とされている。

【 0 0 3 1 】

また、この中央シート 1 6 のシートクッション 1 7 は、図 5 にも示すように、前側分割体 3 4 と後側分割体 3 5 とに分割されている。後側分割体 3 5 は、略直方体形状をなしており、シートフレーム 3 1 に固定されている。後側分割体 3 5 は、シートフレーム 3 1 に固定された状態で、座面 3 7 を上側にし、かつ前面 3 8 を左右方向に沿わせかつ鉛直方向に沿わせる状態とされている。

【 0 0 3 2 】

前側分割体 3 4 は、図 6 および図 7 に示すように、シートフレーム 3 1 の前端部を構成する固定側フレーム 4 0 に回動可能に支持されている。この固定側フレーム 4 0 は、前側ほど上側に位置するように延出する第 1 延出部 4 1 と、この第 1 延出部 4 1 の先端から前側ほど下側に位置するように延出する第 2 延出部 4 2 とを有しており、第 2 延出部 4 2 の前端部に設けられた回動支持部材 4 3 によっ

て前側分割体 3 4 を左右方向に沿う軸線を中心として回動可能に支持している。

【 0 0 3 3 】

前側分割体 3 4 は、略直方体形状をなしており、座面 4 5 を上側にした状態で、後端下部が下側の底部構成部材 4 6 に支持されることになる。ここで、座面 4 5 を上側にした状態の前側分割体 3 4 において底部構成部材 4 6 に支持される端縁部は、左右方向に延在するとともに若干下方に突出する突出縁部 4 7 とされている。そして、この状態で、前側分割体 3 4 は、後側分割体 3 5 に接触するとともに、後側分割体 3 5 の座面 3 7 と自らの座面 4 5 とをほぼ連続させる状態となる。つまり、前側分割体 3 4 と後側分割体 3 5 とは、この状態がシートクッション 1 7 を構成し乗員の着席を許容する着席許容状態となる。

【 0 0 3 4 】

なお、前側分割体 3 4 には、補強フレーム 4 8 が内部の座面 4 5 に対し反対側に埋設されている。また、前側分割体 3 4 の上記着席許容状態における前端側には、補強フレーム 4 8 に固定された状態で回転側フレーム 4 9 が設けられており、この回転側フレーム 4 9 にはストッパバー 5 0 が固定されている。

【 0 0 3 5 】

前側分割体 3 4 は、上記着席許容状態における前端側が回動支持部材 4 3 によって回動可能に支持されており、この着席許容状態から後端部を引き上げることで、回動支持部材 4 3 すなわち左右方向に沿う軸線を中心に前方へ回動することになる。そして、前側分割体 3 4 は、回動により座面 4 5 を下方に向けるように上下反転した状態で、ストッパバー 5 0 が固定側フレーム 4 0 の第 1 延出部 4 1 と第 2 延出部 4 2 との境界の凹部 5 3 に入り込むようにして固定側フレーム 4 0 に当接する。これにより前側分割体 3 4 は停止して前方回動状態となる。なお、前側分割体 3 4 の上記着席許容状態における後面 5 4 は、後側分割体 3 5 の前面 3 8 に対し上記回動が可能となるように下側が若干湾曲する形状をなしている。

【 0 0 3 6 】

そして、前側分割体 3 4 のこのような回動後の前方回動状態における後面 5 5 (すなわち着席許容状態における前面) は、左右方向に沿いかつ鉛直方向に沿っている。

## 【 0 0 3 7 】

前方回動状態にある上下反転後の前側分割体 3 4 の上面 5 6 には、図 7 ～図 8 に示すように、トレイ部 5 7 が設けられている。すなわち、前方回動状態にある前側分割体 3 4 の上面 5 6 側には、周縁部が若干上側に突出する周縁突出部 5 8 とされるとともに、その内側が一段凹んだ平坦な載置面 5 9 とされ、載置面 5 9 の中間位置に若干上側に突出する仕切部 6 0 が形成された形状をなすトレイ部材 6 1 が埋設されており、このトレイ部材 6 1 の上面側すなわち周縁突出部 5 8、載置面 5 9 および仕切部 6 0 がトレイ部 5 7 を構成している。

## 【 0 0 3 8 】

また、前方回動状態では、前側分割体 3 4 の後面 5 5 と後側分割体 3 5 の前面 3 8 と一対の側部シート 1 1 のシートクッション 1 2 の中央シート 1 6 側の側面 6 3 とで水平方向における四方が囲まれて、図 8 ～図 1 0 に示すように、上方開口の収納凹部 6 4 が画成されることになる。すなわち、前方回動状態にある前側分割体 3 4 の後面 5 5 は左右方向に沿いかつ鉛直方向に沿うことになり、後側分割体 3 5 の前面 3 8 は、前方回動状態にある前側分割体 3 4 の後面 5 5 とほぼ平行をなして対向することになり、これらの左右両側に設けられる一対の側部シート 1 1 の側面 6 3 は前後方向に沿いかつ鉛直方向に沿うことになって、これらが四角枠状をなし、その結果、これらの内側に上方開口の収納凹部 6 4 が画成される。

## 【 0 0 3 9 】

そして、上記収納凹部 6 4 の底部は、前側分割体 3 4 が着座許容状態にあるときこの前側分割体 3 4 で覆われるとともに前方回動状態にあるとき露出する部分に設けられた板状の底部構成部材 4 6 で構成されている。

## 【 0 0 4 0 】

この底部構成部材 4 6 の下側には、この底部構成部材 4 6 で開閉される上方開口の第 2 収納凹部 6 7 を画成する箱部材 6 8 がシートフレーム 3 1 に固定されて設けられている。底部構成部材 4 6 はその前端縁部が箱部材 6 8 の上部かつ前部側に、左右方向に沿う軸線を中心として回動可能となるように支持されており、図 8 ～図 1 0 に示すように、略水平に沿う状態で係止されて第 2 収納凹部 6 7 の

上部開口を覆う一方、図 1 1 ～図 1 2 に示すように、前端部を中心に回動し略鉛直方向に沿う状態で第 2 収納凹部 6 7 の上部開口を開放させる。ここで、底部構成部材 4 6 には図示は略すが開閉用の取っ手が設けられている。なお、第 2 収納凹部 6 7 の底には、左右方向の中央にさらに凹んだ凹部 6 9 が形成されている。

#### 【 0 0 4 1 】

この底部構成部材 4 6 の上面は、収納凹部 6 4 に収納される収納物を載置させる載置面 7 2 とされている。

#### 【 0 0 4 2 】

中央シート 1 6 のシートバック 1 8 は、図 1 3 および図 1 4 に示すように、支持軸 3 2 を中心に前倒可能とされており、前側分割体 3 4 が前方回動状態にあって収納凹部 6 4 を露出させている状態において、限度位置まで前倒することで、収納凹部 6 4 の開口を上側から覆う。なお、シートバック 1 8 の高さは、図 1 3 に示すように、前倒状態において前方回動状態にある前側分割体 3 4 のトレイ部 5 7 を覆い隠してしまうことがない大きさとされている。

#### 【 0 0 4 3 】

そして、シートバック 1 8 の背面すなわち限度位置まで前倒した前倒状態での上面 7 5 には、トレイ部 7 6 が設けられている。すなわち、シートバック 1 8 の前倒状態での上面 7 5 側には、周縁部が若干上側に突出する周縁突出部 7 7 とされるとともに、その内側が一段凹んだ平坦な載置面 7 8 とされた形状をなすトレイ部材 7 9 が埋設されており、その周縁突出部 7 7 および載置面 7 8 がトレイ部 7 6 を構成している。また、シートバック 1 8 のトレイ部 7 6 の左右両側は、前後方向に延びるアームレスト部 8 0 とされている。なお、勿論、図 1 5 に示すように、前側分割体 3 4 を着席許容状態としていても、シートバック 1 8 を前倒状態とすればトレイ部 7 6 およびアームレスト部 8 0 を良好に使用できる。

#### 【 0 0 4 4 】

以上に述べた本実施形態の車両用シート構造によれば、中央シート 1 6 に乗員を着席させる場合には、図 4 および図 5 に示すように、シートクッション 1 7 の前側分割体 3 4 を着席許容状態とする。すなわち、前側分割体 3 4 を、底部構成部材 4 6 に載置させ後側分割体 3 5 に接触させるとともに、後側分割体 3 5 の座

面 3 7 と自らの座面 4 5 とをほぼ連続させる状態とする。

【 0 0 4 5 】

一方、中央シート 1 6 に乗員を着席させずに、荷物等の収納物を置くときには、図 7 に示すように、前側分割体 3 4 をその後端部を引き上げて前端側を中心に前方へ回動させることにより、前側分割体 3 4 のストッパバー 5 0 を固定側フレーム 4 0 に当接させて前方回動状態とする。すると、図 8 ～図 1 0 に示すように、前側分割体 3 4 の後面 5 5 と後側分割体 3 5 の前面 3 8 と一对の側部シート 1 1 の中央シート 1 6 側の側面 6 3 とで水平方向における四方が囲まれた上方開口の収納凹部 6 4 が露出することになる。このとき、収納凹部 6 4 の底部を構成する底部構成部材 4 6 が箱部材 6 8 に係止されて載置面 7 2 を上方に向けており、図 1 6 に示すように、収納物 1 0 0 をこの載置面 7 2 に載置させることで、収納物は四方が上記後面 5 5、前面 3 8、両側面 6 3 で囲まれることになり、安定状態で載置される。よって、例えば可撓性の袋に形状の一定しない複数の物品を入れた安定性の悪い収納物 1 0 0 を載置面 7 2 に載置させて、この収納物 1 0 0 に走行により前後左右に荷重がかかっても、袋が倒れて物品が転がり出たりすることを防止できる。

【 0 0 4 6 】

そして、上記のように、収納物を載置させる収納凹部 6 4 を形成するに当たっては、前側分割体 3 4 を回動させれば良く、シートクッション 1 7 を一々取り外す必要が無い。したがって、収納凹部 6 4 を容易に形成することができる。また、収納凹部 6 4 の左右の壁面は、左右の側部シート 1 1 の側面 6 3 で形成されるため、中央シート 1 6 のシートクッション 1 7 の一部で左右の壁面が形成される場合に比して幅を大きくできる。したがって、収納凹部 6 4 の大きさを大きくできる。

【 0 0 4 7 】

また、このように前側分割体 3 4 を前方回動状態とした状態では、前側分割体 3 4 は上下反転して上面 5 6 にトレイ部 5 7 が配置された状態となり、左右の側部シート 1 1 の乗員が中央シート 1 6 の前側分割体 3 4 をトレイとして使用できる。したがって、中央シート 1 6 の前側分割体 3 4 をトレイとして有効利用でき



る。

【0048】

ここで、例えば、図17に示すように、限界位置まで左右の側部シート11を前進させた状態では、前側分割体34が前方回動状態とされた中央シート16を適宜の位置まで後退させれば、前側分割体34の前端部が一对の側部シート11の前端部よりも後側に位置することになり、その結果、トレイ部57の前端部も一对の側部シート11の前端部よりも後側に位置することになる。

【0049】

そして、図18に示すように、限界位置まで側部シート11を後退させた状態であっても、前側分割体34が前方回動状態とされた中央シート16を後方にスライドさせると、限界位置（図18に示す位置）より手前で、前側分割体34の前端部が一对の側部シート11の前端部に一致することになり、その結果、それよりも手前でトレイ部57の前端部が一对の側部シート11の前端部に一致することになる。

【0050】

つまり、中央シート16のスライド機構19によるスライド範囲は、前側分割体34を前方回動状態とした状態で前側分割体34のトレイ部57の前端部を、いずれの位置にある側部シート11の前端部に対しても一致する位置よりも後側に位置させるまで後方スライド可能に設定されている。よって、中央シート16を後方にスライドさせると、左右の側部シート11に着席した乗員と前側分割体34のトレイ部57との距離を近づけることができ、その結果、左右の側部シート11に着席した乗員はトレイ部57の使い勝手がさらに良くなる。なお、中央シート16は、前方回動状態にある前側分割体34の少なくともトレイ部57の前端部を、側部シート11の前端部に対して一致させる位置まで後方スライド可能に設定されていれば、左右の側部シート11に着席した乗員によるトレイ部57の使い勝手は良好となる。

【0051】

また、中央シート16のスライド機構19によるスライド範囲が上記設定とされているため、左右の側部シート11がいずれの位置にあっても前方回動状態に

ある前側分割体 3 4 の前端部がこれら側部シート 1 1 よりも出っ張らない状態にできる。したがって、車両の停車時に左右の側部シート 1 1 間で乗員が行き来するときに中央シート 1 6 の前方回動状態にある前側分割体 3 4 が邪魔にならずに円滑に移動できる。

## 【 0 0 5 2 】

また、必要により、例えば車両に常時携帯しておくもの等の収納物を収納する場合には、前側分割体 3 4 を前方回動状態とした状態で収納凹部 6 4 の底部を構成する底部構成部材 4 6 を開けて、その下側に設けられた上方開口の第 2 収納凹部 6 7 を露出させる。そして、この第 2 収納凹部 6 7 に収納物を収納して、底部構成部材 4 6 を閉じる。このように第 2 収納凹部 6 7 が設けられているため、収納スペースを増やすことができる。

## 【 0 0 5 3 】

さらに、必要により、前側分割体 3 4 を前方回動状態とし、収納物が収納凹部 6 4 になくあるいは収納凹部 6 4 から出ない範囲で設けられている場合に、中央シート 1 6 のシートバック 1 8 を前倒状態にすると、図 1 3 および図 1 4 に示すように、このシートバック 1 8 は収納凹部 6 4 の上方開口を覆う蓋となる。しかも、シートバック 1 8 は前倒後の上面 7 5 にトレイ部 7 6 が配置された状態となるため、左右の側部シート 1 1 の乗員が中央シート 1 6 のシートバック 1 8 をトレイとして使用できる。したがって、中央シート 1 6 のシートバック 1 8 をトレイとして有効利用できる。このとき、前側分割体 3 4 のトレイ部 5 7 も露出しているため、二つのトレイ部 5 7, 7 6 を使用することができる。加えて、このシートバック 1 8 の上面 7 5 にはトレイ部 7 6 の左右に、腕を置くのに十分な幅のアームレスト部 8 0 が配置された状態となるため、左右の側部シート 1 1 の乗員が中央シート 1 6 のシートバック 1 8 をアームレストとして使用できる。したがって、中央シート 1 6 のシートバック 1 8 をアームレストとしても有効利用できる。

## 【 0 0 5 4 】

なお、以上においては、前側分割体 3 4 を前方回動可能に設けたが、前側分割体 3 4 を前方回動可能かつ前方回動状態で前後スライド可能としても良い。この

ように構成すれば、収納凹部 6 4 の前後方向の幅を収納物に応じて調整することが可能となる。

また、前側分割体 3 4 を前後方向のスライド（水平移動）のみ可能とし、前方にスライドすることで収納凹部 6 4 を形成するようにしても良い。

【 0 0 5 5 】

【発明の効果】

以上詳述したように、請求項 1 に係る発明によれば、中央シートのシートクッションの前側分割体を前方に移動させると、この前側分割体の移動後の後面と後側分割体の前面と一対の側部シートのシートクッションの中央シート側の側面とで上方開口の収納凹部が画成されることになる。よって、収納凹部を形成するにあたっては、前側分割体を移動させれば良く、シートクッションを一々取り外す必要が無い。また、収納凹部の左右の壁面は、左右の側部シートの側面で形成されるため、中央シートの一部で左右の壁面が形成される場合に比して幅を大きくできる。したがって、収納凹部を容易に形成することができ、その上、収納凹部の大きさを大きくできる。

【 0 0 5 6 】

請求項 2 に係る発明によれば、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させると、前側分割体は上下反転して上面にトレイ部が配置された状態となり、左右の側部シートの乗員が中央シートの前側分割体をトレイとして使用できる。したがって、前側分割体をトレイとして有効利用できる。

【 0 0 5 7 】

請求項 3 に係る発明によれば、前側分割体の上下反転後のトレイ部の前端部が一対の側部シートの前端部に対し、一致する位置を含む後方に位置するまで中央シートを後方にスライドさせると、左右の側部シートの乗員のトレイ部の使い勝手がさらに良くなる。また、左右の側部シート間で乗員が行き来するときに中央シートの前方に回動した前側分割体が邪魔にならず、円滑に移動できる。

【 0 0 5 8 】

請求項 4 に係る発明によれば、収納凹部の底部を構成する底部構成部材を開けると下側に上方開口の第 2 収納凹部が設けられているため、収納スペースを増や

すことができる。

【 0 0 5 9 】

請求項 5 に係る発明によれば、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させた状態で、中央シートのシートバックを前倒させると収納凹部の開口を覆う蓋となる。しかも、シートバックは、前倒後の上面にトレイ部が配置された状態となるため、左右の側部シートの乗員が中央シートのシートバックをトレイとして使用できる。したがって、中央シートのシートバックをトレイとして有効利用できる。

【 0 0 6 0 】

請求項 6 に係る発明によれば、収納凹部を形成するために前側分割体を回動させた状態で、中央シートのシートバックを前倒させると収納凹部の開口を覆う蓋となる。しかも、シートバックは、前倒後の上面にアームレスト部が配置された状態となるため、左右の側部シートの乗員が中央シートのシートバックをアームレストとして使用できる。したがって、中央シートのシートバックをアームレストとして有効利用できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施形態の車両用シート構造が適用された車室内を示す平面図である。

【図 2】 本発明の一実施形態の車両用シート構造が適用された車室内の一状態を示す斜視図である。

【図 3】 本発明の一実施形態の車両用シート構造が適用された車室内の別の状態を示す斜視図である。

【図 4】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す側面図であって、前側分割体の着席許容状態を示すものである。

【図 5】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す平面図であって、前側分割体の着席許容状態を示すものである。

【図 6】 本発明の一実施形態の車両用シート構造の要部を示す拡大透過側面図であって、前側分割体の着席許容状態を示すものである。

【図 7】 本発明の一実施形態の車両用シート構造の要部を示す拡大透過側

面図であって、前側分割体の前方回動状態を示すものである。

【図 8】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す平面図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材の閉状態を示すものである。

【図 9】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す側面図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材の閉状態を示すものである。

【図 1 0】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す斜視図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材の閉状態を示すものである。

【図 1 1】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す側面図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材の開状態を示すものである。

【図 1 2】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す斜視図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材の開状態を示すものである。

【図 1 3】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す平面図であって、前側分割体の前方回動状態およびシートバックの前倒状態を示すものである。

【図 1 4】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す側面図であって、前側分割体の前方回動状態およびシートバックの前倒状態を示すものである。

【図 1 5】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す側面図であって、前側分割体の着席許容状態およびシートバックの前倒状態を示すものである。

【図 1 6】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す斜視図であって、前側分割体の前方回動状態および底部構成部材を閉じた状態で収納物を載置させた状態を示すものである。

【図 1 7】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す平面図であって、前側分割体が前方回動状態で、側部シートが最も前進しかつ中央シートを適宜の位置で停止させた状態を示すものである。

【図 1 8】 本発明の一実施形態の車両用シート構造を示す平面図であって、前側分割体が前方回動状態で、側部シートが最も後退しかつ中央シートが最も後退した状態を示すものである。

【符号の説明】

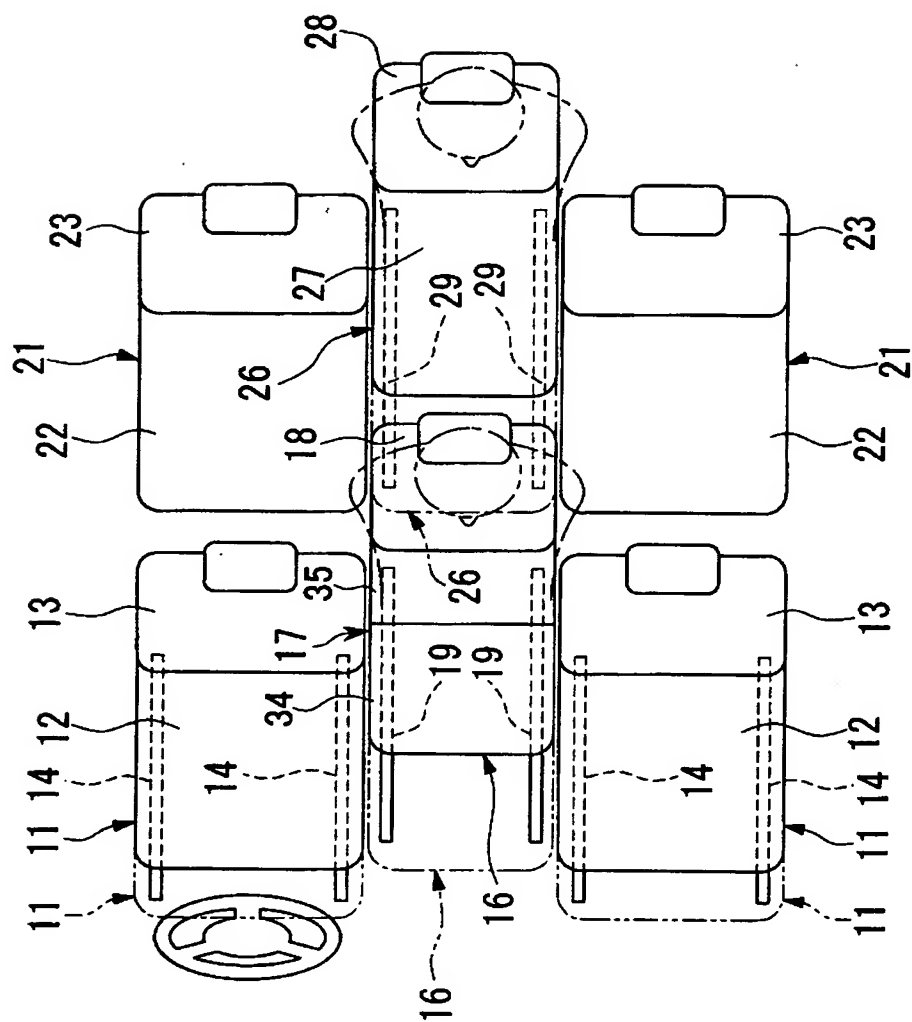
1 1 側部シート

1 6 中央シート

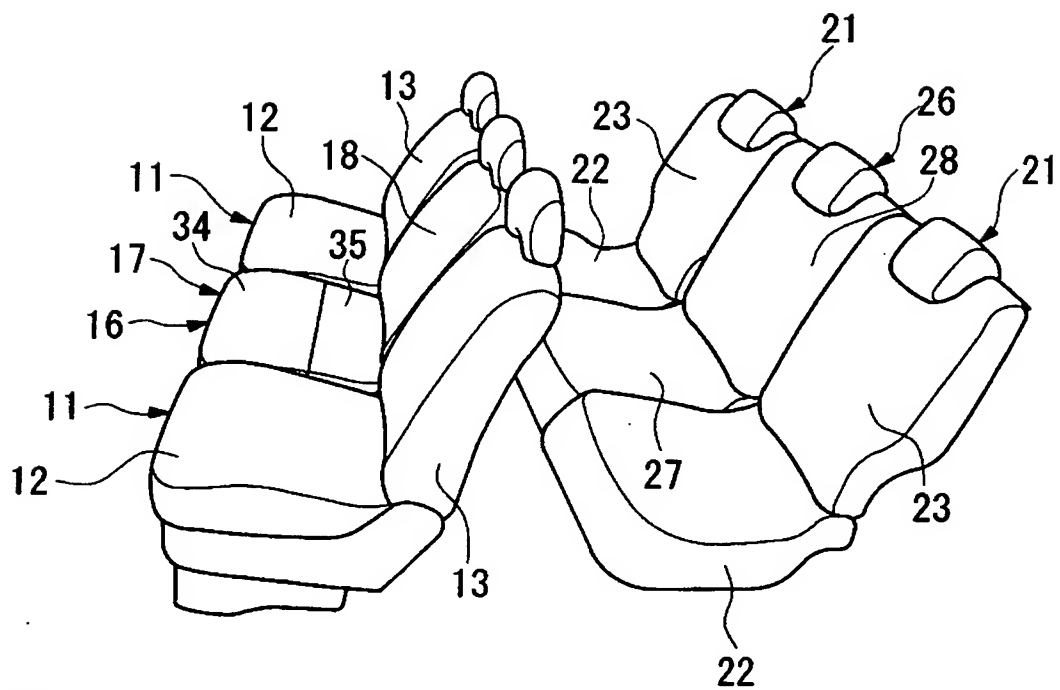
- 1 7 シートクッション
- 1 8 シートバック
- 3 4 前側分割体
- 3 5 後側分割体
- 3 8 前面
- 4 6 底部構成部材
- 5 5 移動後の後面
- 5 6 反転後の上面
- 5 7 トレイ部
- 6 3 側面
- 6 4 収納凹部
- 6 7 第 2 収納凹部
- 7 5 前倒後の上面
- 7 6 トレイ部
- 8 0 アームレスト部

【書類名】 図面

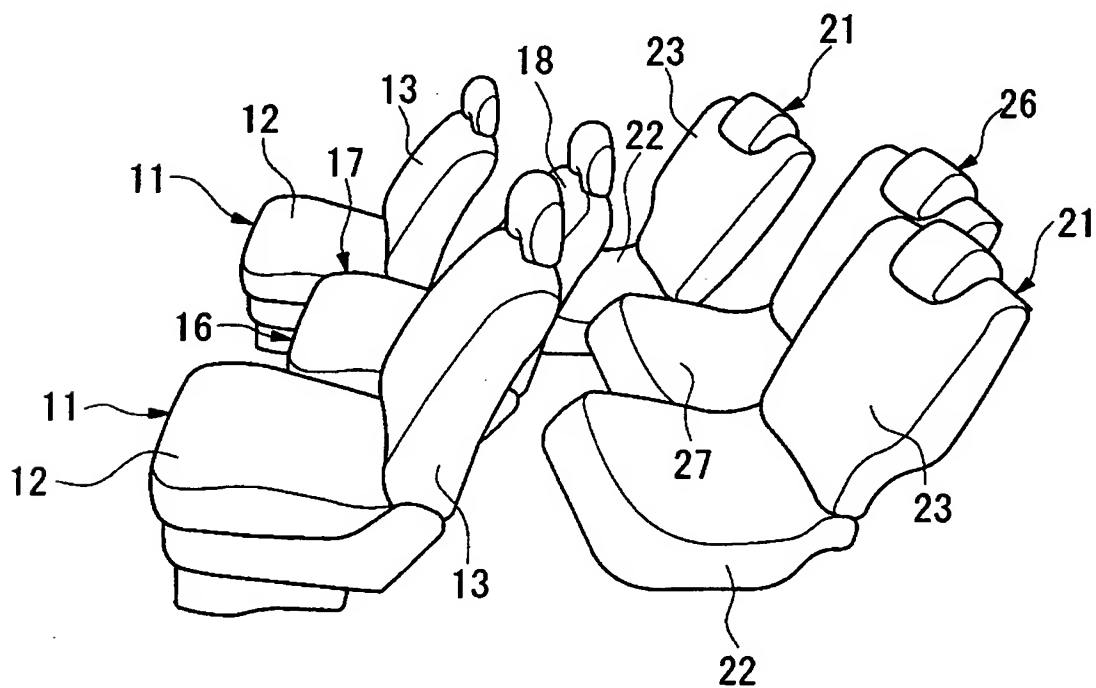
【図 1】



【図2】

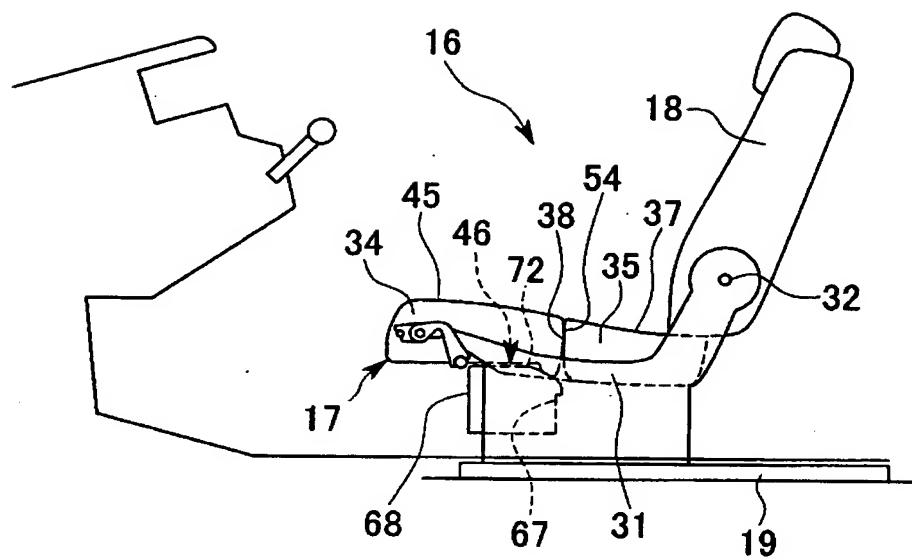


【図3】

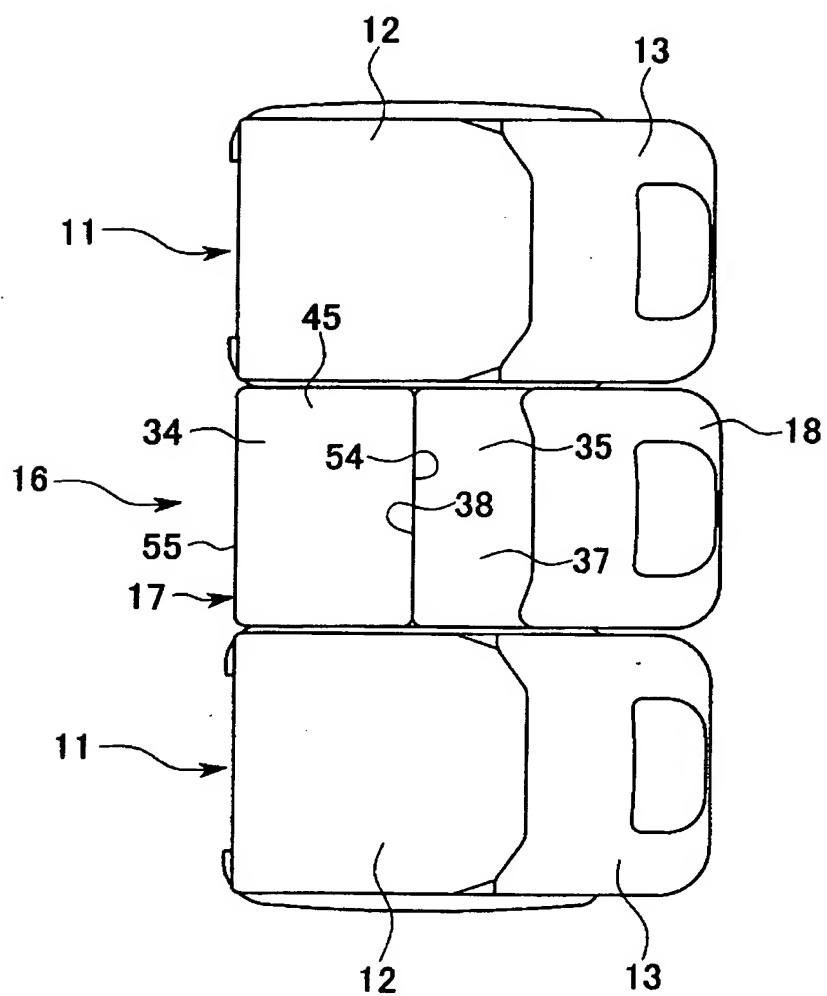




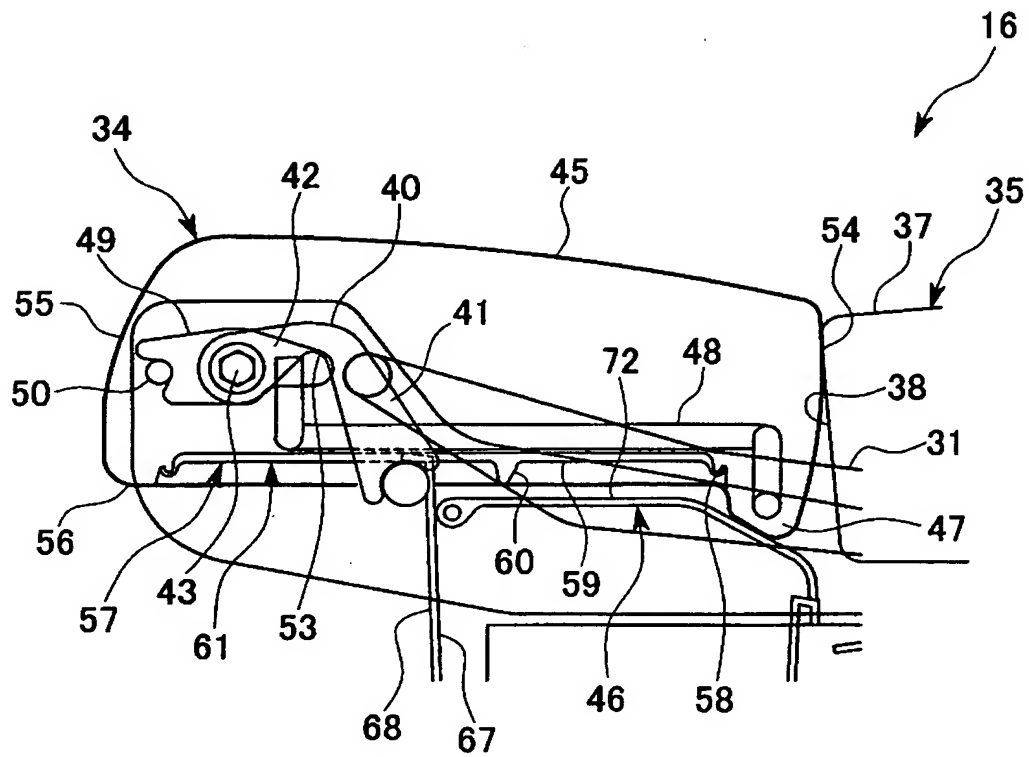
【図 4】



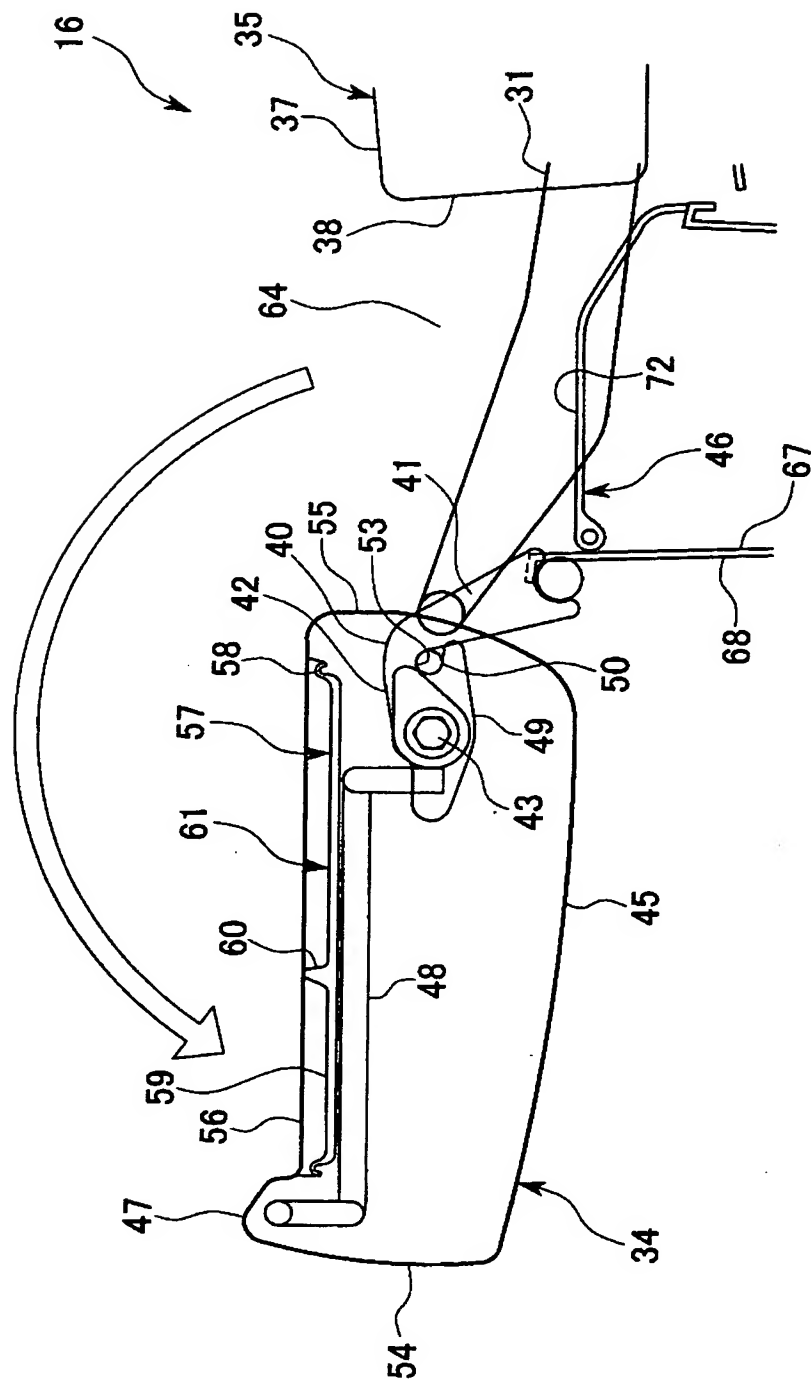
【図 5】



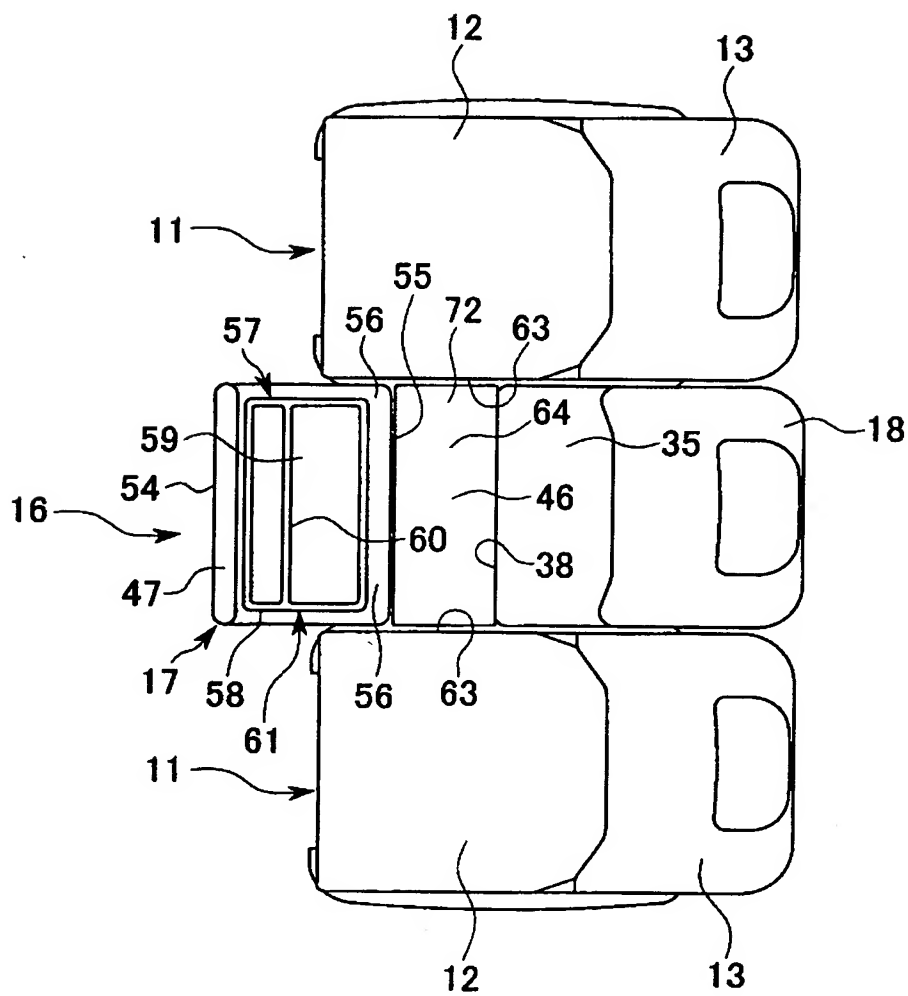
【図 6】



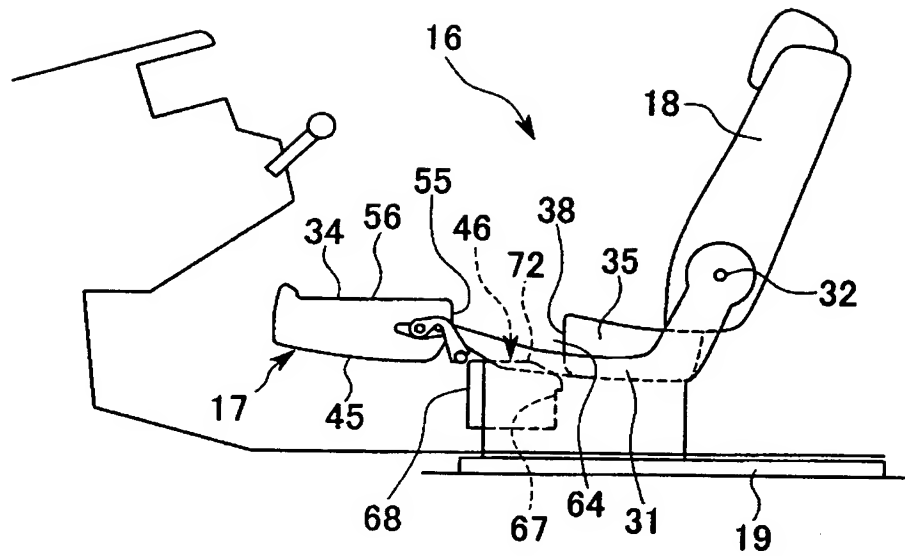
【図7】



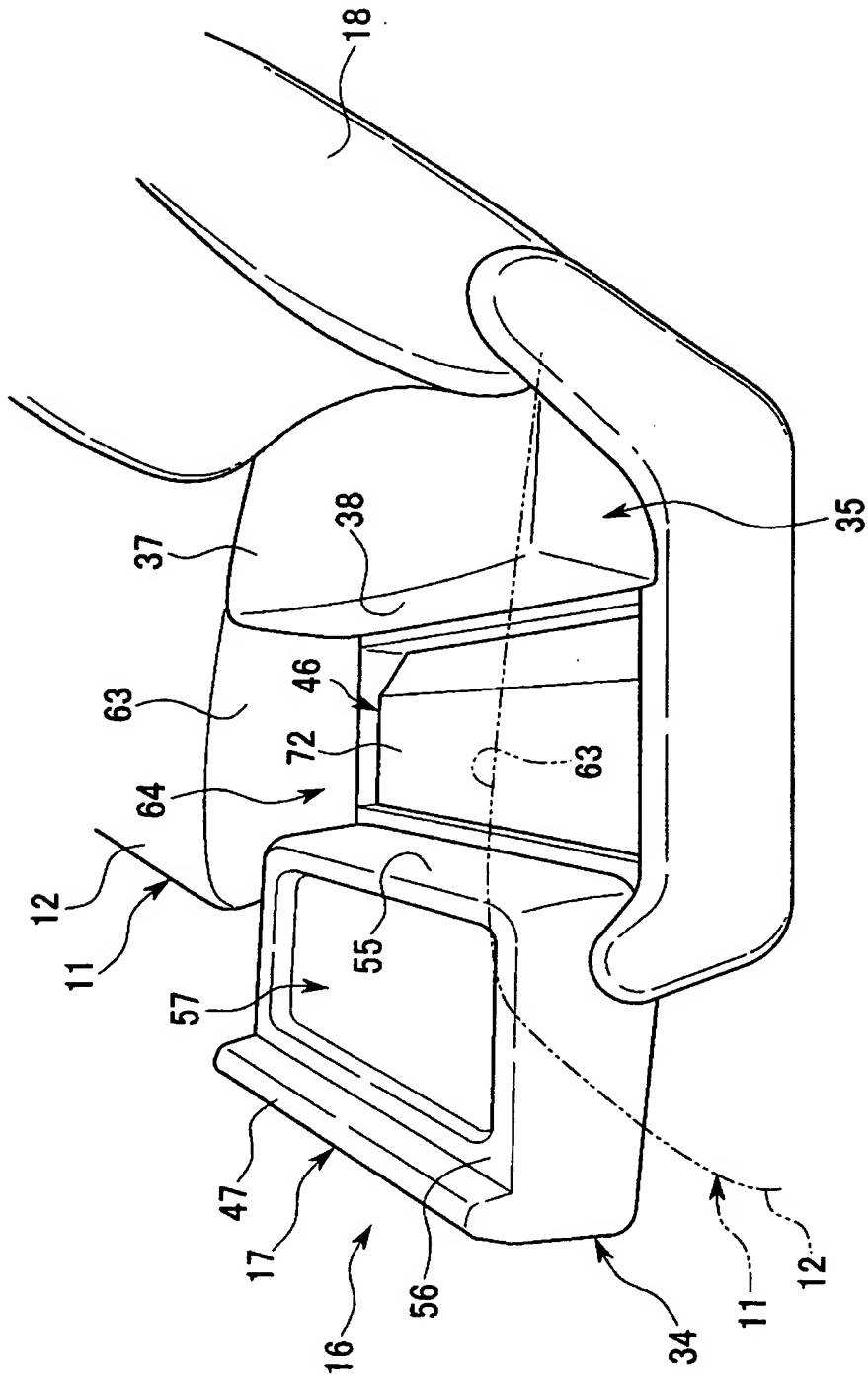
【図 8】



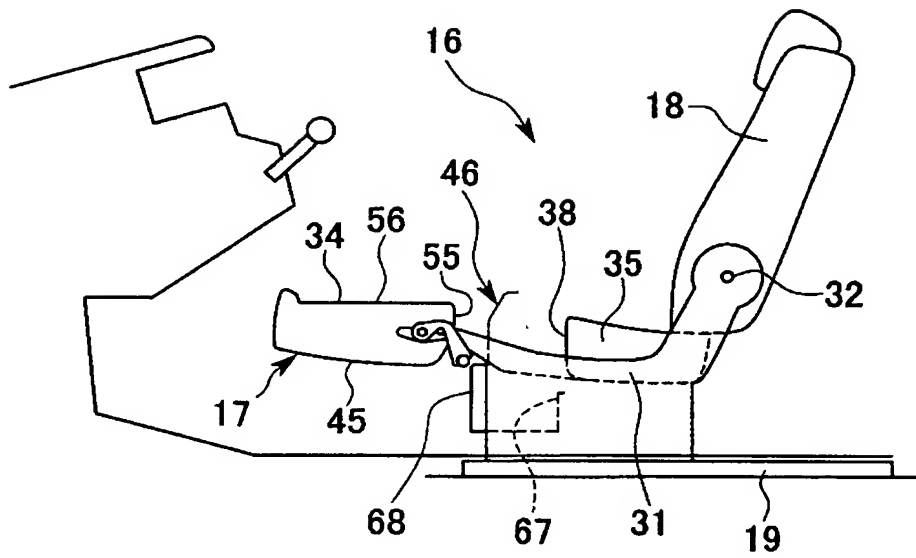
【図9】



【図10】

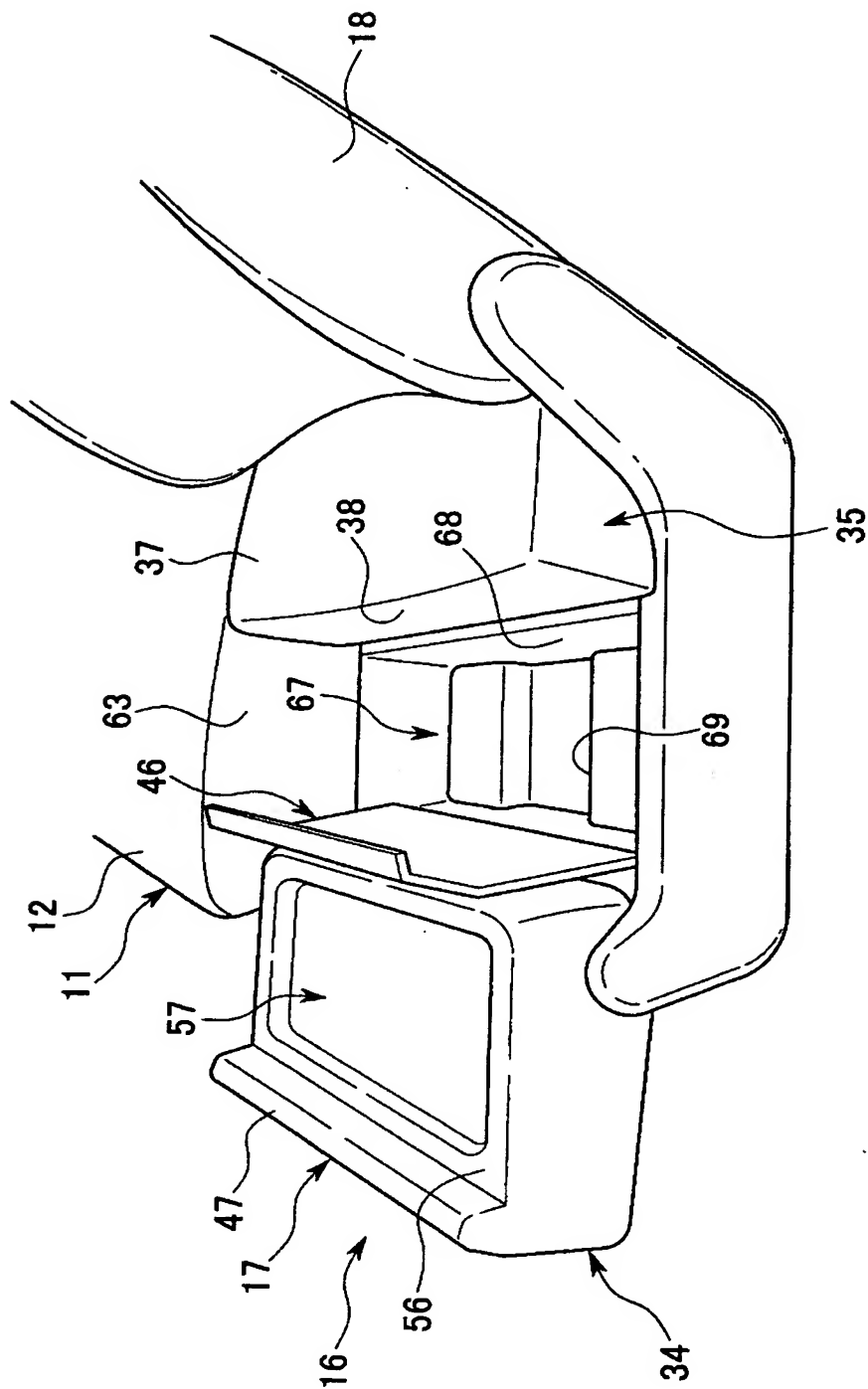


【図 11】

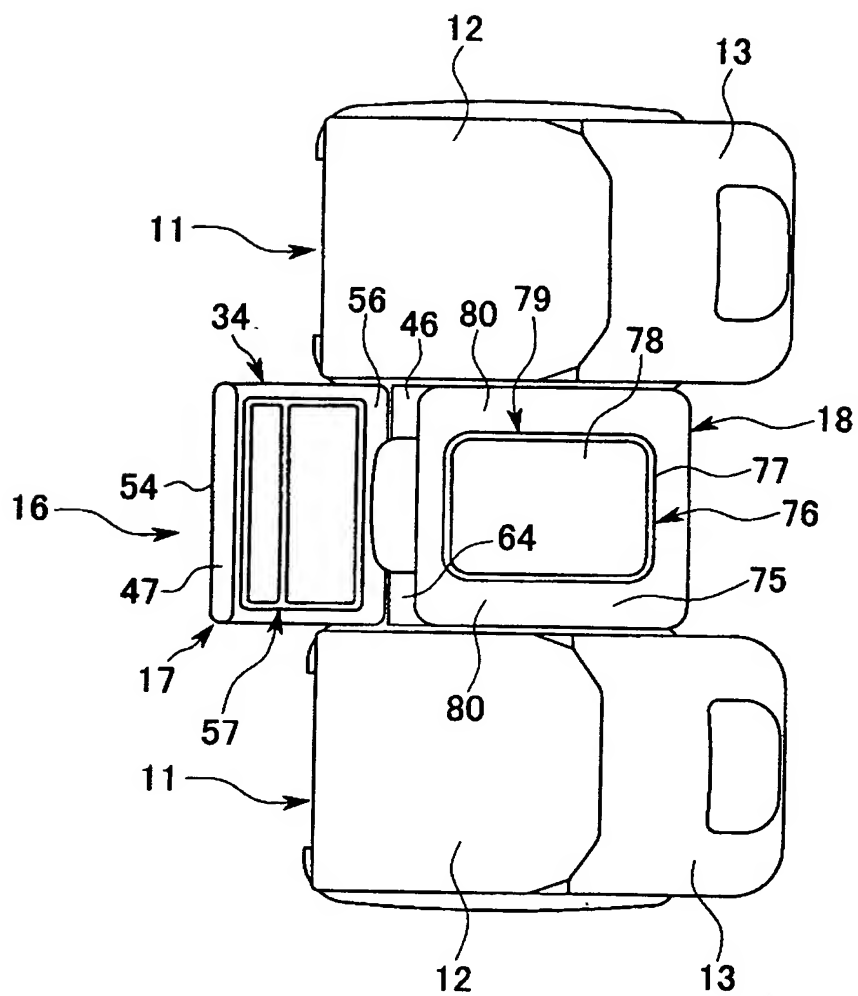




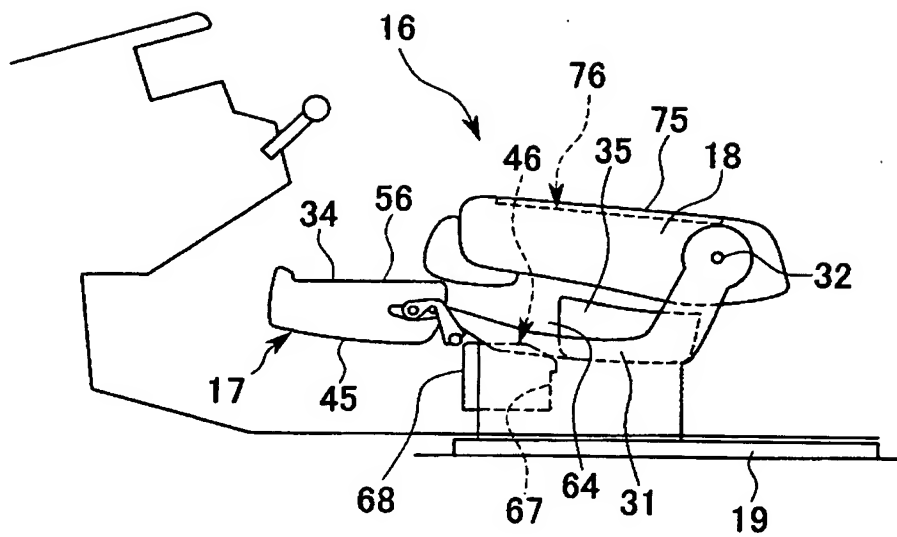
【図12】



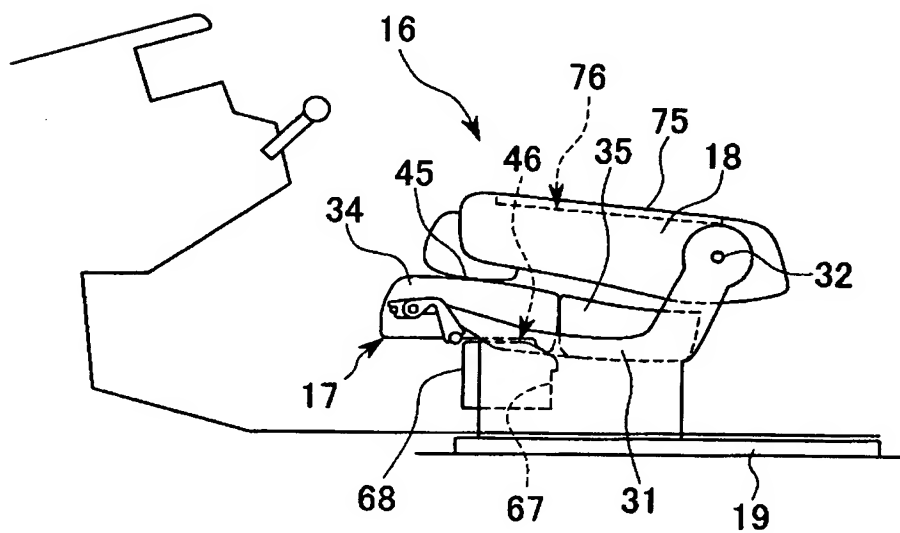
【図13】



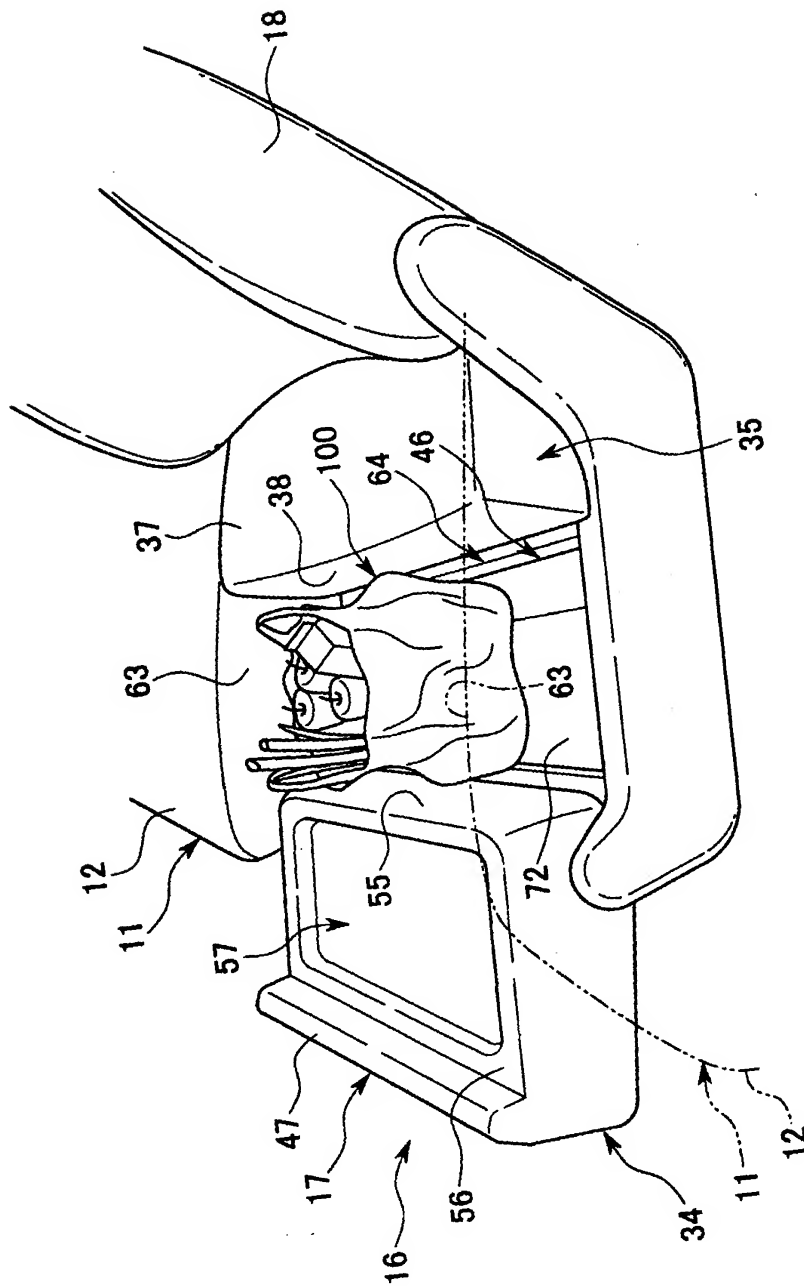
【図14】



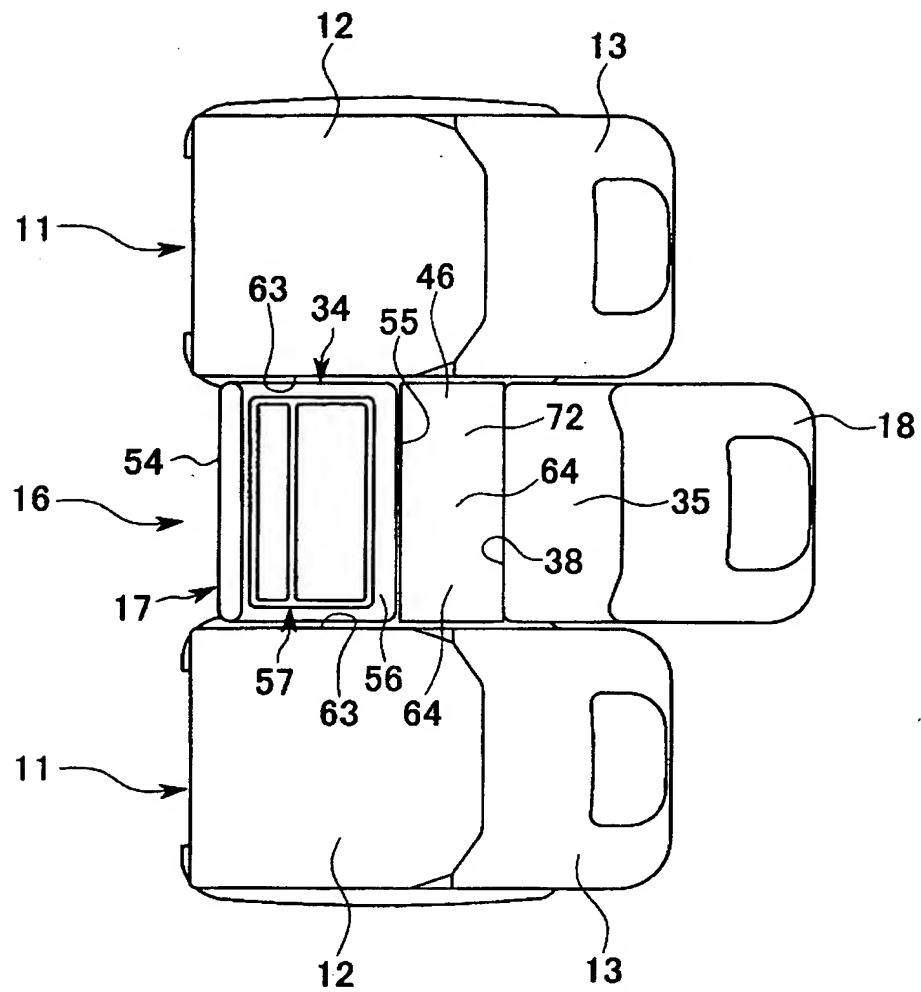
【図15】



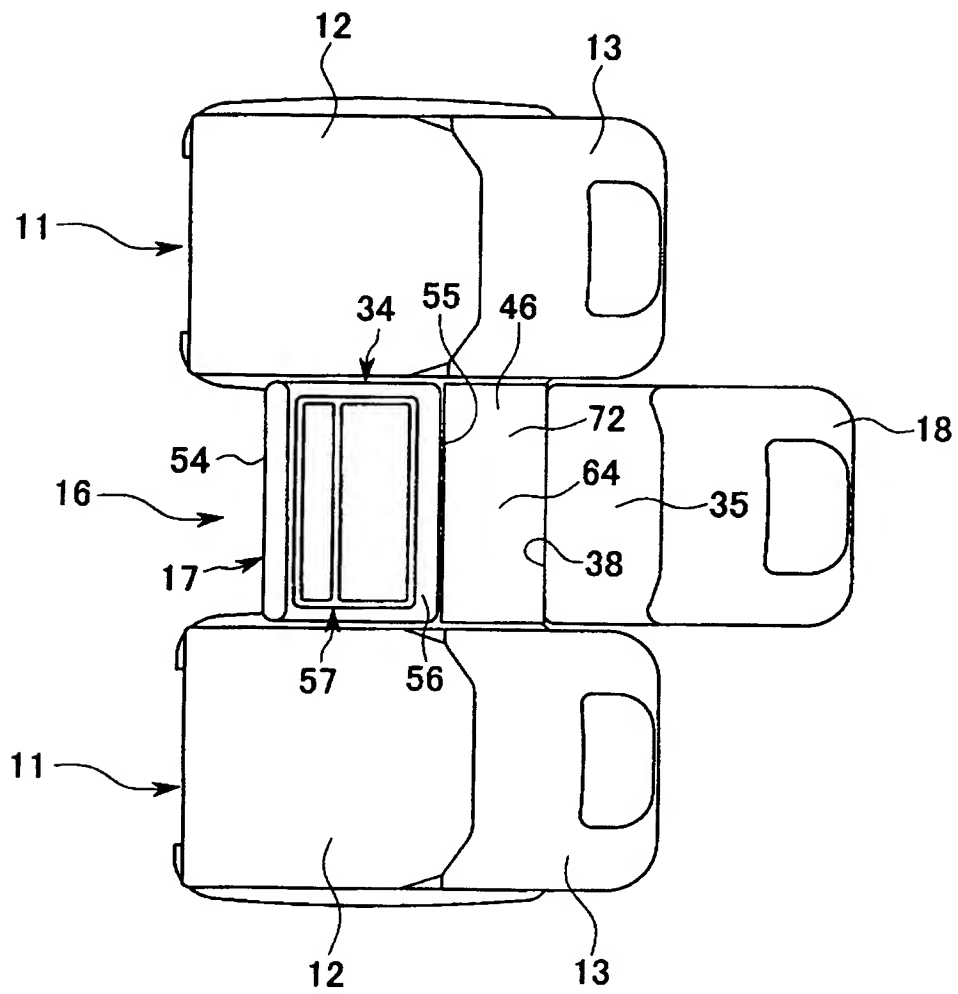
【図16】



【図 17】



【図 1 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 収納凹部を容易に形成することができ、その上、収納凹部の大きさを大きくできる車両用シート構造の提供。

【解決手段】 中央シート 1 6 のシートクッション 1 7 が前側分割体 3 4 と後側分割体 3 5 とを有し、前側分割体 3 4 が前方に移動することにより、該前側分割体 3 4 の移動後の後面 5 5 と後側分割体 3 5 の前面 3 8 と一对の側部シート 1 1 の中央シート 1 6 側の側面 6 3 とで上方開口の収納凹部 6 4 を画成する。

【選択図】 図 1 0

# 認定・付加情報

特許出願の番号	特願2002-273350
受付番号	50201404065
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 9月20日

## <認定情報・付加情報>

### 【特許出願人】

【識別番号】	000005326
【住所又は居所】	東京都港区南青山二丁目1番1号
【氏名又は名称】	本田技研工業株式会社

### 【代理人】 申請人

【識別番号】	100064908
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	志賀 正武

### 【選任した代理人】

【識別番号】	100108578
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	高橋 詔男

### 【選任した代理人】

【識別番号】	100101465
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	青山 正和

### 【選任した代理人】

【識別番号】	100094400
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所
【氏名又は名称】	鈴木 三義

### 【選任した代理人】

【識別番号】	100107836
【住所又は居所】	東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビル 志賀国際特許事務所

次頁有



認定・付加情報（続き）

【氏名又は名称】 西 和哉  
【選任した代理人】  
【識別番号】 100108453  
【住所又は居所】 東京都新宿区高田馬場3丁目23番3号 ORビ  
ル 志賀国際特許事務所  
【氏名又は名称】 村山 靖彦

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005326]

1. 変更年月日 1990年 9月 6日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都港区南青山二丁目1番1号

氏 名 本田技研工業株式会社